

入澤達吉 いざは 内科醫學者、醫學博士。元治二年一月二十一日越後國生北、昭和十一年十一月八日歿（八五—一九三八）。號雲人、雲濤、雲莊、雲莊生。帝國大學醫科大學卒。ドイツに留學し、明治二十七年歸國。二十年内閣の命により足尾鑛毒事件を調査。二十四年東京帝大教授、大正十年同醫學部長、十二年宮内省侍醫頭を兼任して、大正天皇の山療に當る。漢詩、隨筆を能くした。

著書「糖尿病ノ療法」（大正五年九月、日實験醫報社）、日本人の坐り方（就中）（大正十年四月五日自刊、克誠堂書店發賣）、赤懷唱和集（編、昭和二年二月五日自刊）、隨筆「支那叢話」（編、昭和八年八月十五日大畑書店）、森林太郎著「鷗外拾遺」（莊司秋次郎共編、昭和八年十一月十日埼玉・森於菟刊、克誠堂書店）、隨筆「楓菽集」（昭和十一年八月十日岩波書店）、老人病の話（昭和十一年九月五日啓明會事務所「講演集」）、伽羅山莊隨筆（昭和十四年十一月八日改造社）、赤門懷古（昭和二十年十月、二十日生活社「日本叢書」）等。

文獻、入澤達吉先生生誕百年記念文集編纂同人会編「入澤達吉」（昭和四十年五月十五日入澤達吉先生生誕百年記念会）等。

